

〈資 料〉

## 栗山尚一元駐米大使著作目録

服 部 龍 二

栗山尚一大使は、条約局法規課長、条約局条約課長、大臣官房人事課長、条約局長、北米局長、駐マレーシア大使、外務審議官、外務事務次官、駐米大使などを歴任した外交官であった。この間、沖縄返還には条約課長補佐として、日中国交正常化には条約課長として深くかかわり、湾岸戦争では次官として対応を迫られた。駐米大使期の多くは、クリントン政権の時代である。

栗山は退官後、早稲田大学客員教授、国際基督教大学客員教授、宮内庁参与、アジア調査会の会長を務めた。アジア調査会の月刊誌『アジア時報』には、「戦後日本外交の軌跡」を2007年4月から連載していた。「戦後日本外交の軌跡」では、自身の体験を踏まえながら、吉田茂とサンフランシスコ体制から戦後外交を説き起こしている。

栗山が2015年4月に他界したため、「戦後日本外交の軌跡」は湾岸戦争で絶筆となったものの、栗山／服部龍二編『戦後日本外交 軌跡と課題』（岩波書店、2016年）としてまとめられた。そこには「戦後日本外交の軌跡」のほか、3本の論文を『アジア時報』から組み入れてある。栗山の略歴と年表については、同書、266-271頁を参照していただければ幸いである。

栗山は『アジア時報』以外でも、多くの論考を発表していた。『戦後日本外交 軌跡と課題』を編集するに際しては、可能な限りすべての著作やインタビューを読み直し、単行本や論文などについて目録を作成した。本稿は、その目録である。

目録では、「1. 単行本・オーラルヒストリー」を冒頭とし、雑誌掲載論文については、「2. 『アジア時報』」、「3. 『アジア時報』以外」の順とした。「3. 『アジア時報』以外」とは、『外務省調査月報』など『アジア時報』以外の雑誌という意味である。新聞記事に関しては省略した。

雑誌論文のうち『アジア時報』を別扱いとしたのは、先に述べたような経緯から同誌への寄稿が最も多く、その大半が『戦後日本外交 軌跡と課題』として刊行されたためである。

「2. 『アジア時報』」の「収録」に「○」とあるのは、『戦後日本外交 軌跡と課題』所収を意味する。

一部の論題では、洋数字と漢数字が混在するなどしているが、これらの表記は統一しなかった。

なお、本稿は2015年度中央大学特定課題研究費による成果の一部である。

1. 単行本・オーラルヒストリー

著者	書名	出版社	年	ページ
栗山尚一	日米同盟 漂流からの脱却	日本経済新聞社	1997	303
政策研究大学院大学C. O. E. オーラル・政策研究プロジェクト	栗山尚一オーラルヒストリー ——湾岸戦争と日本外交	政策研究大学院大学	2002	119
政策研究大学院大学C. O. E. オーラル・政策研究プロジェクト	栗山尚一オーラルヒストリー	政策研究大学院大学	2004	116
栗山尚一・白石隆・国分良成・道下徳成ほか	日本の外交と安全保障	認定 NPO 法人 言論 NPO	2007	88
栗山尚一／中島琢磨・服部龍二・江藤名保子編	外交証言録 沖縄返還・日中国交正常化・日米「密約」	岩波書店	2010	274
栗山尚一／服部龍二編	戦後日本外交 軌跡と課題	岩波書店	2016	271

2. 『アジア時報』

著者	論題	雑誌	巻号	年	月	ページ	収録	付記
栗山尚一	米大統領選後の日米関係とアジア・太平洋	アジア時報	320号	1997	1	4-28	○	講演
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 1 サンフランシスコ体制 (一)	アジア時報	425号	2007	4	54-55	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 2 サンフランシスコ体制 (二)	アジア時報	426号	2007	5	62-63	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 3 サンフランシスコ体制 (三)	アジア時報	427号	2007	6	60-61	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 4 サンフランシスコ体制 (四)	アジア時報	428号	2007	7・8	60-61	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 5 憲法九条下の再軍備 (一) ——自衛隊は軍隊か	アジア時報	429号	2007	9	82-83	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 6 憲法九条下の再軍備 (二) ——戦争放棄の意味	アジア時報	430号	2007	10	60-61	○	
栗山尚一	テロ特措法の行方 ——試される福田外交	アジア時報	431号	2007	11	63-65		
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 7 憲法九条下の再軍備 (三) ——集団的自衛権の否定	アジア時報	432号	2007	12	67-68	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 8 外交三原則 ——理念と実体 (一)	アジア時報	433号	2008	1・2	60-61	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 9 外交三原則 ——理念と実体 (二)	アジア時報	434号	2008	3	66-67	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 10 外交三原則 ——理念と実体 (三)	アジア時報	435号	2008	4	54-55	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 11 外交三原則 ——理念と実体 (四)	アジア時報	436号	2008	5	66-67	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 12 敗戦国の外交 ——三本柱 (一)	アジア時報	437号	2008	6	46-47	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 13 敗戦国の外交 ——三本柱 (二)	アジア時報	438号	2008	7・8	52-53	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 14 敗戦国の外交 ——三本柱 (三)	アジア時報	439号	2008	9	44-45	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 15 敗戦国の外交 ——三本柱 (四)	アジア時報	440号	2008	10	88-89	○	

服部：栗山尚一元駐米大使著作目録

著者	論題	雑誌	巻号	年	月	ページ	収録	付記
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 16 敗戦国の外交 ——三本柱（五）	アジア時報	441号	2008	11	54-55	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 17 敗戦国の外交 ——三本柱（六）	アジア時報	442号	2008	12	58-59	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 18 安保改訂 ——日米同盟の始まり（一）	アジア時報	443号	2009	1・2	58-59	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 19 安保改訂 ——日米同盟の始まり（二）	アジア時報	444号	2009	3	50-51	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 20 安保改訂 ——日米同盟の始まり（三）	アジア時報	445号	2009	4	66-67	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 21 安保改訂 ——日米同盟の始まり（四）	アジア時報	446号	2009	5	60-61	○	
栗山尚一・伊藤智永	オバマ大統領の核廃絶発言の意味	アジア時報	447号	2009	6	36-57		インタビュー
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 22 安保改訂 ——日米同盟の始まり（五）	アジア時報	447号	2009	6	66-67	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 23 安保改訂 ——日米同盟の始まり（六）	アジア時報	448号	2009	7・8	46-47	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 24 安保改訂 ——日米同盟の始まり（七）	アジア時報	449号	2009	9	48-49	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 25 安保改訂 ——日米同盟の始まり（八）	アジア時報	450号	2009	10	50-51	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 26 安保改訂 ——日米同盟の始まり（九）	アジア時報	451号	2009	11	62-63	○	
栗山尚一	日米同盟50周年 ——「緊密で対等」の課題	アジア時報	452号	2009	12	70-71	○	
栗山尚一	日米同盟50周年 ——「緊密で対等」の課題（二）	アジア時報	453号	2010	1・2	68-69	○	
栗山尚一・倉重篤郎	日米安保条約改訂50年	アジア時報	454号	2010	3	4-33		インタビュー
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 27 安保改訂 ——日米同盟の始まり（一〇）	アジア時報	455号	2010	4	56-62	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 28 安保改訂 ——日米同盟の始まり（一一）	アジア時報	456号	2010	5	74-75	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 29 沖縄返還 ——戦後の終わり（一）	アジア時報	457号	2010	6	84-85	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 30 沖縄返還 ——戦後の終わり（二）	アジア時報	458号	2010	7・8	58-59	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 31 沖縄返還 ——戦後の終わり（三）	アジア時報	459号	2010	9	90-91	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 32 沖縄返還 ——戦後の終わり（四）	アジア時報	460号	2010	10	68-69	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 33 沖縄返還 ——戦後の終わり（五）	アジア時報	461号	2010	11	96-97	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 34 沖縄返還 ——戦後の終わり（六）	アジア時報	462号	2010	12	94-95	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 35 沖縄返還 ——戦後の終わり（七）	アジア時報	463号	2011	1・2	80-83	○	

中央大学論集

著者	論題	雑誌	巻号	年	月	ページ	収録	付記
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 36 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (一)	アジア時報	464号	2011	3	86-87	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 37 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (二)	アジア時報	465号	2011	4	90-91	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 38 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (三)	アジア時報	466号	2011	5	76-77	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 39 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (四)	アジア時報	467号	2011	6	98-99	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 40 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (五)	アジア時報	468号	2011	7・8	84-87	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 41 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (六)	アジア時報	469号	2011	9	122-123	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 42 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (七)	アジア時報	470号	2011	10	80-81	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 43 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (八)	アジア時報	471号	2011	11	112-115	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 44 日中国交正常化 ——安保体制と台湾 (九)	アジア時報	472号	2011	12	106-109	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 45 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (一)	アジア時報	473号	2012	1・2	100-101	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 46 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (二)	アジア時報	474号	2012	3	124-125	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 47 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (三)	アジア時報	475号	2012	4	104-105	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 48 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (四)	アジア時報	476号	2012	5	114-115	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 49 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (五)	アジア時報	477号	2012	6	116-117	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 50 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (六)	アジア時報	478号	2012	7・8	96-97	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 51 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (七)	アジア時報	479号	2012	9	134-135	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 52 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (八)	アジア時報	480号	2012	10	90-91	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 53 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (九)	アジア時報	481号	2012	11	144-145	○	
栗山尚一	尖閣諸島と日中関係 ——「棚上げ」の意味	アジア時報	482号	2012	12	4-10	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 54 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十)	アジア時報	483号	2013	1・2	132-133	○	
栗山尚一	憲法九条をいかに読むべきか ——神学論争からの脱却の道	アジア時報	484号	2013	3	4-13	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 55 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十一)	アジア時報	485号	2013	4	76-77	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 56 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十二)	アジア時報	486号	2013	5	104-105	○	

服部：栗山尚一元駐米大使著作目録

著者	論題	雑誌	巻号	年	月	ページ	収録	付記
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 57 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十三)	アジア時報	487号	2013	6	90-91	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 58 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十四)	アジア時報	488号	2013	7・8	96-97	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 59 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十五)	アジア時報	489号	2013	9	116-117	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 60 国益と国際秩序 ——移行期の外交 (十六)	アジア時報	490号	2013	10	113-117	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 61 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (一)	アジア時報	491号	2013	11	148-149	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 62 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (二)	アジア時報	492号	2013	12	106-107	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 63 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (三)	アジア時報	493号	2014	1・2	78-79	○	
栗山尚一	未だ遠い「和解」への道 ——安倍外交の最大の課題	アジア時報	494号	2014	3	4-11		
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 64 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (四)	アジア時報	495号	2014	4	116-117	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 65 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (五)	アジア時報	496号	2014	5	98-99	○	
栗山尚一	オバマ大統領訪日を評価する ——「リバランス」は本物か	アジア時報	497号	2014	6	64-67		
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 66 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (六)	アジア時報	498号	2014	7・8	120-121	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 67 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (七)	アジア時報	499号	2014	9	144-145	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 68 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (八)	アジア時報	500号	2014	10	56-57	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 69 冷戦を乗り越えて ——大国面をしない大国の外交 (九)	アジア時報	501号	2014	11	94-95	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 70 湾岸戦争 ——問われた日本の平和主義 (一)	アジア時報	502号	2014	12	92-93	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 71 湾岸戦争 ——問われた日本の平和主義 (二)	アジア時報	503号	2015	1・2	88-89	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 72 湾岸戦争 ——問われた日本の平和主義 (三)	アジア時報	504号	2015	3	140-141	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 73 湾岸戦争 ——問われた日本の平和主義 (四)	アジア時報	505号	2015	4	84-85	○	
栗山尚一	戦後日本外交の軌跡 74 (未定稿) 湾岸戦争 ——問われた日本の平和主義 (五)	アジア時報	506号	2015	5	98-99	○	

3. 『アジア時報』以外

著者	論文	雑誌	巻号	年	月	ページ	付記
栗山尚一	旧仏系西および赤道アフリカの経済概観	外務省調査月報	2巻1号	1961	1	31-50	
栗山尚一	低開発国援助の理念とその今後の方向	外務省調査月報	3巻1号	1962	1	48-85	

中央大学論集

著者	論文	雑誌	巻号	年	月	ページ	付記
栗山尚一	外交政策としての開発援助	外務省調査月報	5巻1号	1964	1	1-56	
栗山尚一	レーガン時代を迎える日本外交	中央公論	96巻4号	1981	4	292-304	
栗山尚一	米大統領選を終えて	日本貿易会月報	364号	1984	12	7-10	
栗山尚一	米国の大統領選挙と今後の日米関係の展望	経済人	39巻1号	1985	1	47-52	講演
栗山尚一	第2期レーガン政権の政策方向	世界経済評論	29巻1号	1985	1	15-23	講演
栗山尚一・國廣道彦	日米関係の展望	経済と外交	765号	1986	2	2-15	対談
栗山尚一	責任ある経済大国への途	外交フォーラム	2号	1988	11	32-39	「世界に貢献する日本」
栗山尚一	わが国の対ソ外交に対する基本的立場	外交フォーラム	7号	1989	4	12-21	
栗山尚一・秋元秀雄	プロブレム・トーク 秋元秀雄の辛口対談	平成義塾	2巻3号	1990	3	228-231	対談
栗山尚一	「領土」で棒を呑んだような姿勢はとりません	世界	539号	1990	4	119-127	インタビュー (編集部)
栗山尚一	激変する世界情勢と日本外交の進路	世界経済評論	34巻4号	1990	4	8-19	講演
栗山尚一	激動の90年代と日本外交の新展開 ——新しい国際秩序構築への積極的貢献のために	外交フォーラム	20号	1990	5	12-21	「大國面をしない 大國の外交」
栗山尚一	人質解放と国際協力は同列	文藝春秋	68巻11号	1990	10	105-106	インタビュー (田原総一郎)
栗山尚一	日米安保体制の「政治同盟」化は危険な遊びだ	正論	218号	1990	10	66-75	
栗山尚一・三宅和助	「大國外交」ホントにできるのか ——政治小國・外務省批判どう乗り越える	This is 読売	1巻7号	1990	10	142-151	対談
栗山尚一・石川好	わが外務省案日の目を見ず	文藝春秋	69巻1号	1991	1	292-302	対談
栗山尚一	両国民の意識が変わらねば摩擦増幅の危険	世界週報	72巻1号	1991	1	14-17	インタビュー (原野城治)
栗山尚一	湾岸問題と日本の役割 ——日本の平和主義とは何かが、いま問われている	外交フォーラム	30号	1991	3	4-10	インタビュー (粕谷一希編集長)
栗山尚一	激動の中での日本外交の課題	世界経済評論	35巻5号	1991	5	8-22	講演
栗山尚一・三宅和助	日本外交の再構築 ——米國の顔色を見ないことも日米関係を健全にする手段	日経ビジネス	592号	1991	6	152-155	対談
栗山尚一	日本の湾岸戦争はまだ終わっていない (田原総一郎の「核心を衝く」1)	Will	10巻7号	1991	7	96-101	インタビュー (田原総一郎)
栗山尚一	日米が協力しなければ世界は混乱する ——「理念なき大國外交」はありえない	世界週報	72巻41号	1991	10	40-45	インタビュー
栗山尚一	体験的日本外交論	中央公論	106巻11号	1991	11	108-123	
栗山尚一	世界新秩序の中の日米関係 ——グローバル・パートナーシップを求めて	外交フォーラム	38号	1991	11	16-26	
栗山尚一	「日本の顔」とは何か	正論	231号	1991	11	174-180	シンポジウム「国際社 会における日本の役割 を考える」基調発言
三浦朱門・石井威望・ グレゴリークラーク・ 栗山尚一	シンポジウム 国際社会における日本の役割を考える	正論	232号	1991	12	202-209	シンポジウム
栗山尚一	日本の夢の破綻、そして	エコノミスト	70巻7号 (2997号)	1992	2	62-65	インタビュー (鈴木建二)
栗山尚一	行動のない所に日本の顔はない	週刊東洋経済	5059号	1992	3	86-90	インタビュー

服部：栗山尚一元駐米大使著作目録

著者	論文	雑誌	巻号	年	月	ページ	付記
栗山尚一	日米関係と大使の役割	正論	236号	1992	4	128-139	インタビュー (大島信三編集長)
栗山尚一・三宅和助	新駐米大使となった栗山尚一氏を直撃! “要注意”段階に入った日米関係を検証する	経済界	27巻8号 (485号)	1992	4	144-148	対談
栗山尚一	アメリカ——徹底した市場開放と規制緩和を (特集 新たな外交課題)	外交フォーラム	61号	1993	10	64-68	
栗山尚一	日米関係の全体像を ——クリントン・橋本首脳会談を終えて	外交フォーラム	93号	1996	6	7-14	
栗山尚一	これからの日米関係と外交の課題	公研	34巻7号	1996	7	58-85	講演
栗山尚一	漂流し始めた日米関係 ——共通の目的意識の再構築が必要	世界週報	77巻39号	1996	10	6-9	
栗山尚一	わが国の対ソ外交に対する基本的立場 (100号記念特別号-代表論文10選)	外交フォーラム	100号	1996	12	24-31	
栗山尚一	提言 米国の友人として期待すること 祝・クリントン大統領、無知の障壁こそ正したい	By the way	7巻1号 (33号)	1997	1	30-32	
三宅和助・栗山尚一・ 森本亮	新春特別座談会 98年世界情勢を読む	経済界	33巻3号 (624号)	1998	1	124-133	座談会
栗山尚一	日米パートナーシップの修復に向けて	国際文化会館会報	10巻1号	1999	1	1-4	
栗山尚一	これからの日米関係	日本工業倶楽部 木曜講演会講演要旨	1111号	1999	3	1-23	講演
栗山尚一	日中国交正常化	早稲田法学	74巻4-1号	1999	5	39-57	
栗山尚一	「日米同盟」の新たな目標と進路。	潮	484号	1999	6	86-93	
栗山尚一	21世紀の国際社会における日本 ——法の支配への貢献	NBL	684号	2000	3	6-12	
栗山尚一	日本外交への期待 ——21世紀を見据えて(〔国際問題〕創刊40周年記念特集)	国際問題	481号	2000	4	29-49	
栗山尚一	私の提言 新しい日本外交の座標軸	外交	16巻3号	2000	8	1	
栗山尚一	私の提言 一国平和主義からの脱却	外交	16巻6号	2001	2	1	
栗山尚一	これからの日米関係	貿易と関税	49巻6号	2001	6	6-12	(財)日本関税協会 常務理事会講演録
栗山尚一	私の提言 集団的自衛権論議を考える	外交	17巻3号	2001	8	1	
栗山尚一・田中明彦・ 木村伊量	新しい戦争と日本	論座	78号	2001	11	16-29	対談
栗山尚一・反町勝夫	世界に通じる常識に基づく憲法解釈を	法律文化	13巻12号	2001	12	20-23	インタビュー
栗山尚一	ポスト・イラク戦争の課題	中東研究	4巻1・2号 (482号)	2003	4	2-8	
栗山尚一	憲法9条と自衛権何が常識か(1)戦争放棄の常識	外交フォーラム	180号	2003	7	75-79	
栗山尚一	憲法9条と自衛権何が常識か(2)戦力の不保持の常識	外交フォーラム	181号	2003	8	59-65	
栗山尚一	憲法9条と自衛権何が常識か(3)神学論争からの脱却	外交フォーラム	182号	2003	9	64-69	
栗山尚一	未熟な“外交感覚”の広がりを憂う	中央公論	119巻7号	2004	7	132-135	
栗山尚一	ブッシュ再選とこれからの日米関係	日本工業倶楽部 木曜講演会講演要旨	1231号	2005	1	1-32	講演
栗山尚一	今後の中東をどう見る (特集 イラクの混迷と中東の進む道-今後の中東をどう見る)	中東研究	6巻1号 (488号)	2005	4	8-14	
栗山尚一	憲法9条をどう読む	霞関会会報	712号	2005	5	13-16	

中央大学論集

著者	論文	雑誌	巻号	年	月	ページ	付記
栗山尚一	和解 ——日本外交の課題（上）反省を行動で示す努力を	外交フォーラム	210号	2006	1	8-15	
栗山尚一	和解 ——日本外交の課題（下）和解の実現を目指して	外交フォーラム	211号	2006	2	63-69	
栗山尚一	台湾問題についての日本の立場 ——日中共同声明第三項の意味	霞関会会報	738号	2007	10	11-15	
栗山尚一	「密約」問題(1)	霞関会会報	770号	2010	6	7-9	
栗山尚一	「密約」問題(2)	霞関会会報	771号	2010	7	12-15	
栗山尚一	「密約」問題(3)	霞関会会報	772号	2010	8	7-11	
栗山尚一	「密約」問題(4)	霞関会会報	773号	2010	9	9-13	
栗山尚一	外交密約と対米・対中外交	読売クオーターリー	16号	2011	冬	80-90	講演要旨
栗山尚一	中国も日本も面子が立ち、どう表現するかが知恵でした (特別企画「原点・日中国交正常化」)	外交	15号	2012	9	125-132	インタビュー
栗山尚一	普遍的な「外交」の考察と分析	外交	19号	2013	5	162-163	古典読みかえし ニコルソン「外交」
栗山尚一	尖閣諸島問題を考える	霞関会会報	805号	2013	5	5-9	
栗山尚一	イラク軍がクウェートに侵攻	外交	30号	2015	3	78-79	

(総合政策学部教授・日本政治外交史)